

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400988		
法人名	医療法人 安田会		
事業所名	グループホームるしだ		
所在地	熊本県玉名市横島町横島3399番地1		
自己評価作成日	平成22年3月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成22年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

訪問した誰もが言う感想は、ゆったりした広い建物という点。歩行状態が正常な方なら狭くても良いが、車椅子の方は広いスペースがどうしても必要になってくる。当ホームは、こうした特色をはじめとして家事や買い物等も困難になってしまった方にも、いつでも家庭的で尊厳のある暮らしを提供できるよう目指している。医療法人で同一敷地内に診療所があるため、体調不良や急変時も医療面のサポート体制が整っている。母体が介護老人保健施設のため、骨折し入院になっても、リハビリしてホームに戻れる連携機能もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広く明るいリビングで、中庭等の整備された共用空間があり、利用者の方がゆっくりと過ごすことができるよう支援されています。敷地内に同法人が運営する病院や老健があり、重度化や終末期にも対応できる体制が整っているようです。開設から5年を経過し、様々な工夫をされながら、地域に根ざしたグループホームのあり方についても検討されてきたようです。職員の異動等もあり、これからは試行錯誤しながら取り組まれていられることでしょうか。より一層の地域密着の理念に添った支援を今後も続けて行かれることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の現況も踏まえ、職員全員で話し合い、理念の見直しを行い、作成した。	6年前の開設当初に職員全員で話し合われた理念があり、思いを共有しながら日々の業務に携わって来られた経緯があります。法人内で職員の異動があり、新たなスタッフと共に作り上げた理念の共有方法を管理者は模索中のようです。	22年度の目標に、ひとつひとつの理念の中の具体性を提示し、日々の実践の中で共有し、1年間の総合評価として検討され、スタッフ全員で考えた理念が生きてくることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーや薬局、美容室の利用の中で、協力も得られている。地域の行事にも積極的に参加できるよう努めている。	老人会や地域行事等へは定期的に参加されているようです。公民館での認知症の講話もされています。近所の方への挨拶等は散歩の時など随時行われているようです。	日常的な地域との付き合いが少ないことを思慮されています。週1回でも地域の方が事業所に気軽に入ってこられるような取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の実施や訪問者への相談支援、近隣の認知症高齢者の必要時の支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の代表者はグループホームや介護事業の知識はないので、逆にそういう方からの素朴な意見を上手く聞き出し、参考にするよう努めている。	2ヶ月に1回開催され、行事や事故報告等が行われています。昨年からの地域の区長さんの参加により、素朴な問いかけがあり、いい刺激になっているようです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席してもらっている。普段質問の電話をするときも、分からないことは県に問い合わせた後に丁寧に答えてくれたりと、親切に協力してくれる。	運営推進会議への市町村担当者や地域包括支援センターの参加があり、その場での意見交換や、電話での問い合わせ等、随時相談されているようです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、原則として行っていない。緊急でも、一人で判断せず、協力者の応援を得るような体制ができています。	勉強会や日々の業務の中で、身体拘束について随時話し合われているようです。緊急避難的に行われることもあるようですが、今後も日々話しあいながら、身体拘束をしないケアに意欲的に取り組まれていくようです。	身体拘束等においても、職員の異動等の際に多少の意識のズレがあるようです。ケアの代替方法や、教育の方法等を検討され、今後もより一層の身体拘束をしないケアに取り組まれる事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設と合同で勉強会を行った。日頃の声かけ等にも気をつけ、入居者の状況次第では介助者が交代できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	顧問弁護士による個別相談や勉強会などサポート体制ができています。入居者にも今後必要性がでてくる方はおられるので、定期的に制度の利用を検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院時の取り決めや個人情報等重要なポイントはじっくり時間をかけて説明している。報酬改正のような時は重要事項説明書を再度発行し、一人一人説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表をメンバーとして入れている。また家族会も運営推進会議と合同で行うことが多く、外部者と意見交換する機会を作るようにしている。	年2回予定されている家族会、運営推進会、行事等への参加時等に意見を聞き取るようにされています。又、日常の中で職員が得た家族からの意見等についても、管理者へ報告する事の大切さを随時指導されているようです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	小規模の良い点だと思うが、毎月の会議等で、職員は積極的に発言できている。今年度作成した理念も、職員からの提案を基に作成したものであり、現場重視の姿勢で運営している。	毎月1回定例会において意見交換するようにされています。出された意見についてサポートする体制はあるようです。	職員それぞれが、運営に自ら参加しているという意識を持って頂く事も大切です。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人理事のホーム長が現場に常駐し、会議等にも参加している。本来、介護保険事業所の中でグループホームの給与水準は低い方だが、当ホームは併設の老健施設と同じ水準に保っており、やりがいをもつように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの資格、経験に応じて外部研修を振り分けたり、地域のグループホームの会合の担当者をローテーションさせて、実力の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	数か所のグループホームとは事業所を往来する交流を行っている。また地区の連絡会が2か月ごとに開催され、15事業所が集まり、交流や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が必ず入居までに本人を訪問し、本人と十分面談する。入居時には職員間で情報を共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込みから受入の間に十分な聞き取りを行っている。特に医療機関から移ってくる場合は、サービスへの期待が大きいので、想いを十分に聞くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	機能訓練が必要な場合は併設施設のPTに定期的に来てもらったり、当事業所でできることを最大限に工夫して行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務中、制服ではなく家庭にいるような服を着用し、介護者、利用者という立場ではなく、共に暮らす家族的な関係を保つよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、事業所にいる時間が心地よくなるよう、職員は家族と友好的な関係を築くように努力している。また年間の行事の中で、家族に案内を出し、一緒に食事したり大衆演劇を観たりする機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会での礼拝が習慣になっている入居者は、入居後もボランティアの支援を受け、礼拝を続けている。	馴染みの場所への関係継続のために、ボランティアの支援を依頼したり、家族等の面会時はお茶を出すなど、ゆっくりと過ごせる支援を心掛けておられます。	地域のサロン活動等への参加も含めて、今後も馴染みの関係継続等の支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者個々の性格を把握し、作業の参加、入浴、食事等を通して関係が崩れないよう配慮し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居扱いになっても、可能なら戻ってきたいと考える方がほとんどなので、定期的に病院に本人の状態を見に行ったり、家族と連絡を取り合い支援を継続する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いが通るように支援を行う。家族との思いがすれ違う時には、本人が納得できるような代替ケアを検討している。	家族等への聞き取りや、日々の生活の中での表情観察や対応時の反応等で利用者の思いや意向をくみ取るようにされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報を集め、個人に合った暮らし方ができるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や日誌等を活用し、個々の状態が把握できるような体制を作っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、併設施設の医師、OT、PT、管理栄養士、薬剤師等に相談し、担当者を交え話し合いの場をもち、本人、家族へ情報提供を行っている。	介護支援専門員である管理者が家族、利用者、各担当者等の意見を聞き暫定プランを立て、2週間の間に職員全員でアセスメントを行いカンファレンスで共有するようにされています。管理者がモニタリングを行い職員全員が目を通すように努力されています。	サービス担当者会議は行われていません。家族等を含めた担当者全員が同じテーブルに付き共有する機会を持たれることも大切です。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて現状を把握、情報の共有をし、サービス提供に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所で企画する日帰り旅行では、入居者の費用は請求しない。また、家族会終了後に入居者と家族で食事を楽しんでもらいたいため、無償で食事を提供したりと、可能な範囲でそうしたサービスも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の理容室とは良い関係ができており、お茶を御馳走になったり、散髪終了後にホームまで送ってもらうこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所には職員が送り迎えするが、入居者によっては、家族の協力を得ながら、他のかかりつけ医にも通っている。必要に応じ各主治医への情報提供や面談を行っている。	かかりつけ医への受診支援は原則家族で対応されていますが、必要時等は随時職員による受診支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と連携をとって、様子を見にきてもらったり、状態報告に行ったりと密に連絡している。夜間も看護職が一人勤務しているので、緊急時には応援に来てもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と共に付き添い、情報提供を行う。1ヶ月以上の入院で退居になることを医療機関には説明し、なるべく早い時期に判断をしてもらう。その結果で家族と最良の方法を検討する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について説明している。必要に応じ、家族、主治医、看護師と相談して対応を検討している。	開設当初から3名の方の終末期支援が行われています。その時その時で細かい話し合いを行いながら、重度化や終末期を支援する体制となっているようです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生法等の応急手当の訓練を消防署に依頼している。また定期的に連絡体制の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は運営推進会議に地区の消防団長を呼び、事業所をよく見てもらった。現在は、地域住民の応援よりも併設事業所からの応援が有効と考え、事業所一斉訓練に力を入れている。	22年度にスプリンクラーの設置が予定されています。消防署参加の下、夜間体制での避難訓練が行われています。火災等の際はボタンひとつで消防署や全職員へ一斉に連絡がいく通報システムがとれています。	避難した後の事故防止や対応方法等をイメージしながら、避難訓練を行い、意思統一することも大切です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のような温かい関係作りを目指すため、全員を苗字で呼ぶようなことは徹底せず、個々にあった声かけや対応を見極めている。	言葉かけや日常の対応等も配慮するようにされているようです。	居室のベッドがリビングにおかれ、見守りの中、利用者が休まれる事もあるようです。一人ひとりの人格や誇りに対して職員全員が共通認識をもち対応されて行かれる事も大切です。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り、個人で選択できる場面をもち、意見が取り組めるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身状況に合わせたペースを崩さないよう、また個人の意見を取り込めるような柔軟な対応ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得ながら、個人にあった身だしなみやおしゃれができるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の力に合わせた食材の準備や片づけへの参加があっている。クリスマスケーキ作りには男性の入居者も入り、一生懸命調理する姿もあった。職員も同じテーブルで食事をしている。	状態に応じた食事形態を工夫され、野菜の皮むき等の下ごしらえを状況に応じて一緒にされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ食事(水分)形態を変えたり、状況や嗜好に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせた口腔ケア、義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要時には、チェック表を活用し、排泄パターンの確認を行い、個人に合わせた誘導を行っている。	声かけの工夫をしたり、本人の仕草をみながら、排泄誘導がされています。排泄チェックを行い、気持ちよい排便ができるように、薬の調整や食事での排便コントロールが行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を毎日行っている。食事には季節の野菜や果物を取り入れ、固めの食材については、調理の仕方も工夫している。飲み物も状況に応じ、種類を選んでもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必要、要望時の入浴は対応できている。	週2回～3回は入浴することができるよう支援されています。現在夜間入浴は対象者がおられないようですが、希望があれば夜間入浴にも対応可能とのこと。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活パターンの中で状況に応じて、または希望時に休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更があれば、薬効、副作用を知り、口頭又は申し送りを通じ、観察項目を示してあげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動への参加が習慣となり参加したり、状況に応じた声かけで参加したり、様々なパターンがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力もあり、自宅の行事への参加もみられている(法事、葬儀、お盆、正月、節目のお祝い等)。	買い物や近所への週1回位の外出支援が行われ、敷地内散歩は毎日のように行われています。又、天候をみて、花見等のドライブ等の外出支援も行われています。	日常的な散歩支援を生活リズムの中に入れていかれることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得ながら、お金を所持する入居者もいる。外に買い物に出られない入居者は、ホーム内でも買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に利用できるよう支援している。希望があれば電話番号を調べたり、職員の方で番号を押ししたりと支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、高い天井で南側にはガラス窓が一面に貼ってあるので、日中は気持ちよい日差しが入り、快適である。改装したウッドデッキは更に安全性を増し、庭の景色も居心地のよいものになっている。	広いリビング、天井の空間があり、利用者の作品が壁に掲示され、日当たりが良く、中庭の景色やウッドデッキ等居心地が良い共有空間が作られています。	広く明るく居心地良いハード面の良さを生かしたより一層の取り組みを期待します。利用者が自ら作る空間作りの支援を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには複数の集う箇所があり、ベンチも備えている。廊下や庭にもベンチを設置しているので、それぞれが好きな所で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームとしては最小限の設備を用意するだけで、契約時に入居者の馴染みのあるものを持ち込んでほしい旨を伝えている。	病院や施設等での生活習慣があり、病院等での生活が長い方や在宅からの直接入居かを見極めながら、飾りが多い部屋、ベッドだけの殺風景な部屋等その人に合わせた部屋作りを心掛けておられます。	ベッドがリビングに出され、そこで休まれる方もおられるようです。見守り等、色々な目的はあるでしょうが、一人ひとりの居心地の良い居室空間作りを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢で足腰や弱っている方でも、自由に動いてもらえるよう、通常の1ユニットの建物より広い造りにし、廊下の幅、トイレの空間、段差なしで庭園に行ける等あらゆる所を工夫してある。		